

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	①人格を形成し、言語力を育成する。 ②個性伸長の教育を実現する。 ③基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ④自主的・創造的な生活態度を形成する。 ⑤社会性を育成し、情操の涵養を図る。
(2) 現状と課題	令和8年度の全日本聾教育研究大会に向けて、学習指導の重点化と業務のスリム化に取り組んでいる。課題として、聴覚障がい教育の専門性向上や、在籍数減少・障がいの多様化への対応、技能教科専任がいないことによる豊かな学びの補償、地域とともにある学校づくりが挙げられる。
(3) 重点目標	1 聴覚障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた授業の充実 2 教職員の協働と働きがいのある職場づくり 3 地域とともに歩む学校づくりの推進 4 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実
(4) 結果の公表	・学校運営協議会で学校評価アンケートの結果と今後の取組みについて、説明・配布した。 ・保護者に向けて、学校評価アンケートの結果と今後の取組みについて、お知らせを配布した。 ・学校ホームページに学校評価アンケートの結果と学校評価結果報告書を掲載し、地域に発信した。

学校整理番号	特3
学校名	青森県立青森聾学校
対象障害種別	聴覚
自己評価実施日	令和7年12月13日(金)
学校関係者評価実施日	令和8年 1月29日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 8名 保護者代表 1名 地域住民代表 3名 聴覚障がい者代表 1名 有識者 2名 本校校長 1名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	聴覚障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた授業改善を行っている。	一人一授業や外部講師の招聘、他校視察の取組を通して、授業の充実を図る。	東北聾研究大会の主管校として、授業を公開し、参加者、助言者より肯定的な評価を得た。年間を通して、一人一授業(20回以上)外部講師の招聘(15回)や他校視察(6回)に取り組み、授業の改善が図られた。	A	手話等を活用した授業づくりを進め、幼児児童生徒のコミュニケーション能力を高めてほしいとの意見が寄せられた。また、社会の変化に対応するため、ICT活用を推進し、学習の質の向上につなげてほしいとの要望が示された。	今年度の成果を次年度へ確実に継承するための方策を講じるとともに、外部講師の招聘や「一人一授業」の取組を継続し、全教職員が日常的に授業改善と生活指導の充実に取り組める体制を強化する。
2	チーム青聾として協働し、働き方改革を推進するとともに、東北聾研究大会及び創立100周年記念式典を成功に導く。	全教職員によるワークショップを実施し、提案された業務改善を実行する。イベントの目的、計画を全教職員で共有し、進捗を都度確認する。	業務改善に取り組んだ結果、自己評価が前年度より向上した。また、東北聾研及び記念式典においては、各種事業を展開しつつ全教職員の協働体制のもと盛大に実施することができ、外部からも肯定的な評価を得た。	A	ICTの活用や情報共有アプリの導入により、教員の業務負担を軽減し、より充実した指導につながることを望まれるとの意見が示された。	目的や方針を定期的に確認する機会を設け、教職員の強みを踏まえた明確な役割分担を進めるとともに、会議やICTツール等を活用した効果的・効率的な情報共有の場を整備することで、組織的な職務遂行と業務改善を一層推進する。
3	地域の人的資源を活用した教育活動を推進する。	学校運営協議会委員や本校卒業生、交流校等の人的資源を積極的に活用し、継続的な地域連携体制を構築・推進する。	創立100周年特別企画では、学校運営協議会委員や交流校、卒業生と連携した取組を実施し、テレビ等で報道されたことにより、啓発につながった。また、地域の人的資源を活用して、リンゴの花の受粉活動やラーメン店で体験活動を実施することができ、地域連携の深化に寄与した。	A	創立100周年記念式典にボランティアとして参加した学生や生徒からは、大変貴重な経験となり喜んでいたりとの意見が寄せられた。また、今後も機会があれば交流したいとの要望が示された。	地域や居住地の学校との交流および共同学習を継続するとともに、学校運営協議会委員や本校卒業生、交流校等の人的資源を積極的に活用し、授業における外部人材の参画を計画的かつ効果的に進めることで、より一層開かれた教育課程の構築を図る。
3	地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に取り組んでいる。	聴覚障がいのある子どもやその保護者、小中学校等の担任に対し、支援および相談活動を計画的に実施し、適切な助言・情報提供を行う体制を推進する。	地域の小中学校において校内研修会や生徒向けの障がい理解授業を実施するとともに、難聴児支援の懇談会を県健康福祉部と連携して運営したことで、支援体制の充実と地域の理解促進に一定の成果を上げた。	A	小・中学校での校内研修会など、聴覚障がいへの理解を深める機会を今後も継続して設けてほしいとの意見・要望が寄せられた。	聴覚障がい教育に関する研修・相談する機会を一層充実させるとともに、東青地区の事務局校として、特別支援学校各校の強みを生かしたセンター的機能の強化に計画的に取り組む。
(11) 総括	今年度は、外部講師の招聘や「一人一授業」を通じた授業改善、役割分担の明確化やICT活用による情報共有の改善に取り組み、組織的な業務体制の強化を図った。また、地域連携や人的資源の活用を進め、開かれた教育課程の充実にもつながった。さらに、研修体制や相談支援の環境整備を進め、教職員の専門性向上に寄与するとともに、組織として学び合う文化の醸成にもつながった。今後は、こうした取組を継続的に発展させ、「チーム青聾」としての一体感を一層高め、地域との協働や外部連携を強化しながら、全日聾研の成功と学校全体の教育力向上に向けて計画的に取り組んでいく。					